

令和2年度（令和3年3月31日現在）貸借対照表

（単位：千円）

資 産	金 額	負債及び純資産	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金及び預貯金	100,422	保険契約準備金	16,384
現金	296	支払備金	5,616
預貯金	100,125	責任準備金	10,767
有価証券	—	代理店借	1,136
有形固定資産	—	社債	—
無形固定資産	—	その他負債	1,835
ソフトウェア	—	未払法人税等	182
貸付金	—	未払金	62
その他資産	6,412	未払費用	1,437
未収金	5,590	預り金	152
前払費用	55	退職給付引当金	—
立替金	13	役員退職慰労引当金	—
預託金	—	価格変動準備金	—
その他の資産	752	繰延税金負債	—
繰延税金資産	1,311	負ののれん	—
供託金	14,000	負債の部 合計	19,356
		(純資産の部)	
		資本金	100,000
		新株式申込証拠金	—
		資本剰余金	—
		利益剰余金	2,789
		利益準備金	—
		その他利益剰余金	2,789
		繰越利益剰余金	2,789
		自己株式	—
		自己株式申込証拠金	—
		株主資本合計	102,789
		その他有価証券評価差額金	—
		繰延ヘッジ損益	—
		土地再評価差額金	—
		評価・換算差額等合計	—
		新株予約権	—
		純資産の部 合計	102,789
資産の部合計	122,145	負債及び純資産の部合計	122,145

令和2年度 (令和2年4月1日から
令和3年3月31日まで) 損益計算書

(単位：千円)

科 目	金 額
経常収益	90,533
保険料等収入	90,119
保険料	90,119
再保険収入	—
責任準備金等戻入額	412
責任準備金戻入額	412
資産運用収益	1
利息及び配当金等収入	1
その他経常収益	—
経常費用	93,236
保険金等支払金	44,934
保険金	43,670
給付金	1,264
責任準備金等繰入額	3,343
支払備金繰入額	3,343
資産運用費用	—
事業費	44,958
営業費及び一般管理費	43,982
税金	395
減価償却費	580
退職給付引当金繰入額	—
その他経常費用	—
経常損失	2,702
特別利益	—
価格変動準備金戻入額	—
その他特別利益	—
特別損失	—
価格変動準備金繰入額	—
その他特別損失	—
税引前当期純損失	2,702
法人税及び住民税	182
法人税等調整額	△ 503
法人税等合計	△ 321
当期純損失	2,381

注記事項

- 1 事業年度末日において、財務指標の悪化の傾向、重要な債務の不履行等、財政破綻の可能性その他株式会社が将来にわたって事業を継続するとの前提に重要な疑義を抱かせる事象または状況は存在していません。
- 2 消費税及び地方消費税の会計処理は、税込方式によっています。
- 3 責任準備金は、保険業法第 272 条の 18 に準用する第 116 条の規定に基づく準備金で、次の方式により計算しています。
 - ・普通責任準備金は保険業法施行規則第 211 条の 46 第 1 項第 1 号に定める方式
 - ・異常危険準備金は保険業法施行規則第 211 条の 46 第 1 項第 2 号に定める方式
(積立基準、積立限度及び取崩基準は金融庁長官が定める方式(平成 18 年金融庁告示第 16 号))
- 4 無形固定資産に計上している自社利用のソフトウェアの減価償却の方法については、利用可能期間(5 年)に基づく定額法により行っています。
- 5 リース物件の所有権が借り主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によって行っています。
- 6 無形固定資産の減価償却累計額は 22,199 千円です。
- 7 関係会社に対する金銭債務の総額は 347 千円です。
- 8 繰延税金資産の総額は 1,311 千円で、発生の原因別内訳は繰越欠損金 1,311 千円です。また、当事業年度における法定実効税率は 17.95%です。弊社は過去(3 年)又は当期において、重要な税務上の欠損金が生じていることから、企業会計基準適用指針 26 号 26.(分類 4)に該当するものと判断して、繰越欠損金に対して税効果会計を適用しています。
- 9 1 株当たりの純資産額は 51,394 円 69 銭です。
- 10 正味収入保険料は 90,199 千円です。
- 11 正味支払保険金は 44,934 千円です。
- 12 1 株当たりの当期純損失の金額は 1,190 円 59 銭です。
- 13 当事業年度末発行済株式の総数は、普通株式 2,000 株です。
- 14 保険金等の支払能力の充実の状況を示す比率(ソルベンシー・マージン比率)は 8,714.5%です。
- 15 事業年度の末日後、翌事業年度以降の財産又は損益に重要な影響を及ぼす事象は発生していません。